

熊本中央病院を受診された患者さま、研究対象者のみなさまへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

以下の臨床研究に関しては、個人情報情報を匿名化した上で学会、研究会等への利用をさせていただきます。

内容をご確認いただき、研究対象者となることを希望されない方は下記お問い合わせ先へご連絡ください。

|           |  |
|-----------|--|
| 研究課題名     | 転移性去勢感受性前立腺癌に対する薬物療法の治療成績とその予後の検討  |
| 研究責任者     | 泌尿器科 濱田 真輔   |
| 本研究の目的・意義 | <p>転移性去勢感受性前立腺癌(mCSPC)に対する標準治療は、アンドロゲン受容体(AR)経路を遮断する薬物的または外科的去勢治療である。しかし、前立腺癌は数年で必ず治療抵抗性を獲得し去勢抵抗性前立腺癌(CRPC)となる。しかし近年、感受性がある段階の転移性前立腺癌(mCSPC)に対しアンドロゲン遮断療法(ADT)に新規ホルモン薬のアビラテロン、エンザルタミド、アパルタミドや抗癌剤のドセタキセルを併用することの有効性が証明されている。しかし、日本人においてそのまま適用すべきか否かの議論が多く、アビラテロン、エンザルタミド、アパルタミドやドセタキセルなどの併用療法がどのようなmCSPC患者にメリットがあるか不明である。</p> <p>そこで、本研究では、mCSPCに対する薬物治療を行った症例の背景や各薬剤の治療効果、予後、予後予測因子、副作用等について後方視的に検討する。</p> |
| 研究予定期間    |  |
| 該当資料・データ  | <p>対象となる患者さま<br/>当院で2017年12月から2023年12月までの間に、mCSPC患者に対し、薬物治療を行った症例を対象とする。</p> <p>利用する情報：電子カルテに記載のある診療記録・検査データを利用する。</p>   |
| 個人情報の取扱い  | <p>診療録から得られたデータから、氏名、生年月日、手術日など個人情報を識別可能な症状を削除し、個人情報とは無関係の番号をつけ、研究機関毎に連結可能匿名化を行います。</p> <p>個人識別情報と付加番号の対応表は研究機関毎に作成し、各機関の個人情報管理者が厳重に管理します。データ解析の際は、匿名化後のデータのみを扱うため、個人を特定できる情報は含みません。研究の成果を学会、誌上に公開する際も個人を特定できる形では公表しません。</p>   |
| 共同研究機関    | なし   |
| 本研究の資金源   | 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。  |
| お問い合わせ先   | <p>電話：096-370-3111(代表)<br/>担当者：濱田 真輔(泌尿器科)</p>   |